



鉛の需給動向

平成19年6月28日

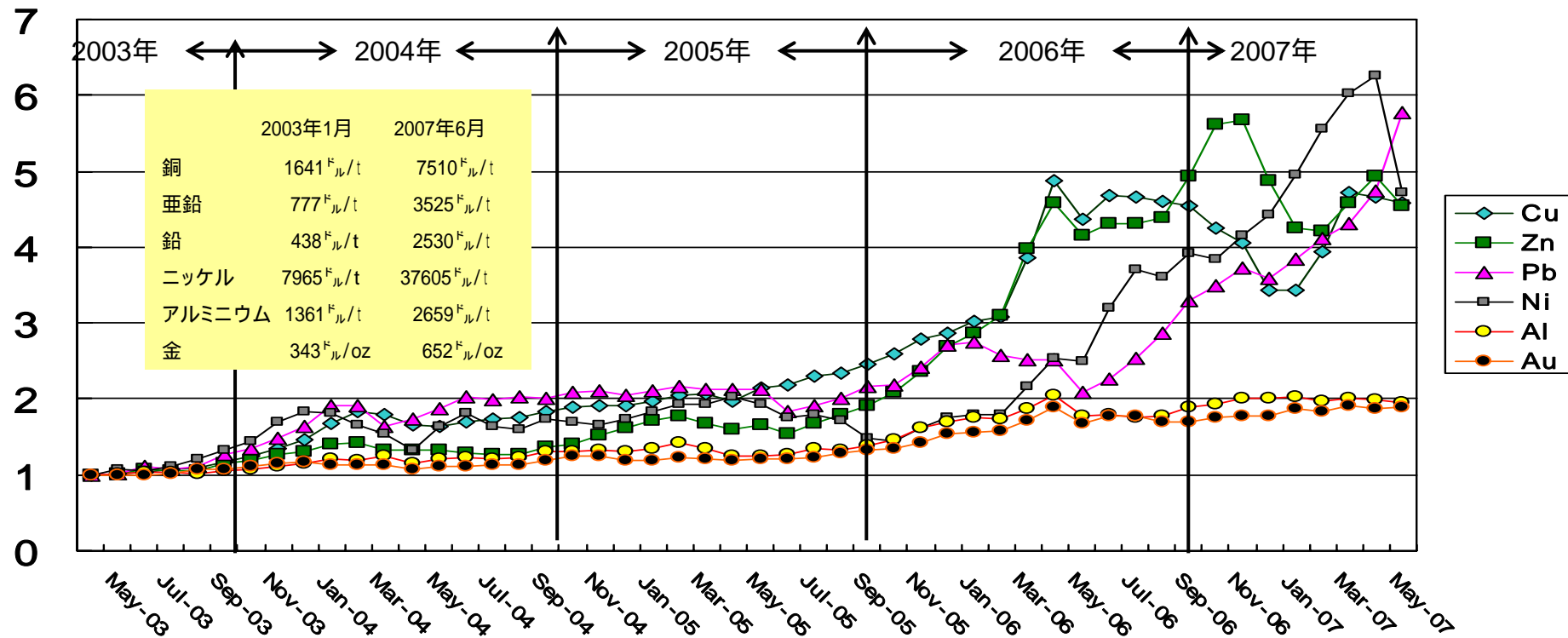
金属資源開発調査企画グループ

神谷夏実

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

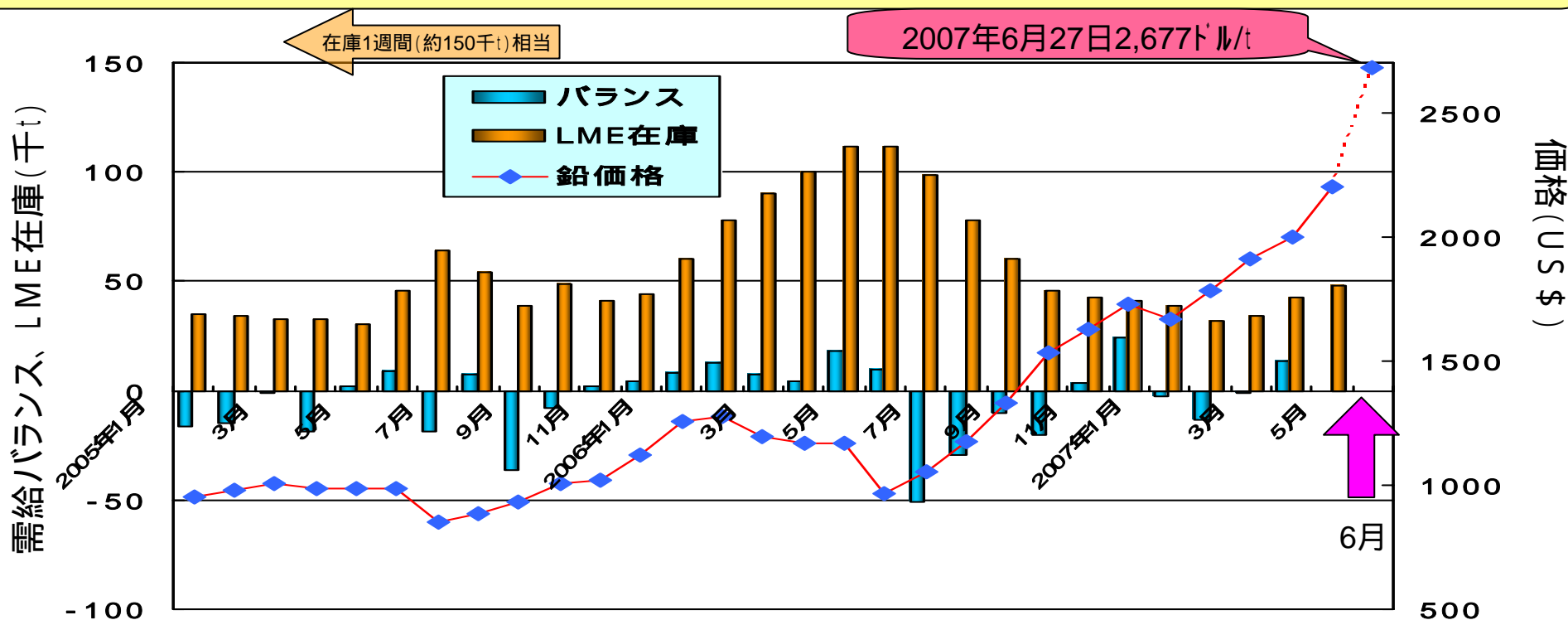
金属価格指数の推移 (2003年5月 = 100)

- 主要金属6鉱種の価格推移を、2003年5月をベース(1.00)として指数で表す。
- 2007年5月時点で、ニッケルは6倍強、銅、亜鉛、鉛は5倍まで上昇。金とアルミニウムは2倍で推移。
- 銅と亜鉛は2006年4月より急騰、ニッケル、鉛は2006年7月より急騰を始める。
- 価格高騰は、需要増によるファンダメンタルの上昇に加え、投資ファンド介入による価格吊り上げによる。価格高騰後は、いつ投資ファンドが引き、下落するかが焦点となる。
- 鉱種的に多角化した非鉄メジャーは、金属、その他資源(鉄鉱石、石炭等)価格の変化に対してリスクヘッジとなる。



鉛需給バランスと価格動向(2005年1月～)

- 鉛価格は、2006年7月以降急騰し、2007年6月、2,677ドル/tという史上最高値まで上昇。
供給障害(豪州鉱山、製錬所定修)、供給減(中国輸出増値税還付廃止、輸出関税)等とファンドの介入により先行き不安から価格高騰。
- LME在庫は2006年、年央以降減少傾向にあったが、2007年に入りわずかながら増加傾向にある。
- バランスは2006年後半から供給不足が続く、2007年も依然としてタイトである。

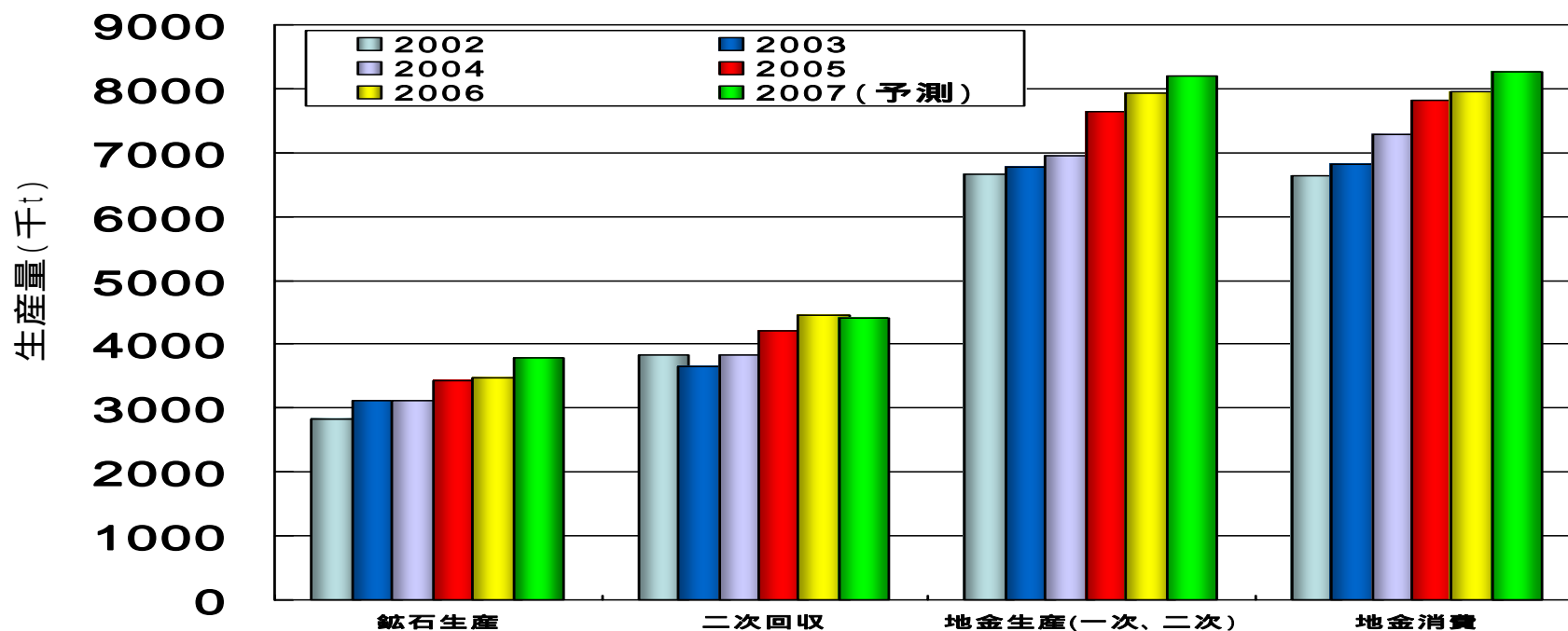


鉛の需給

鉛の需給(2002年～2007年)



	2005(実績)	2006(実績)	2007(予測)	2007(1 - 4月) (前年比)
鉱山生産	3,423千t(9.4%増)	3,473千t(1.5%増)	3,789千t(9.1%増)	1,177千t(2.7%増)
地金生産(一次、二次)	7,637千t(9.8%増)	7,901千t(3.5%増)	8,209千t(3.9%増)	2,717千t(1.0%増)
地金消費	7,801千t(7.3%増)	7,936千t(1.7%増)	8,261千t(4.1%増)	2,721千t(3.5%増)
バランス	- 128千t	- 35千t	- 52千t	-4千t



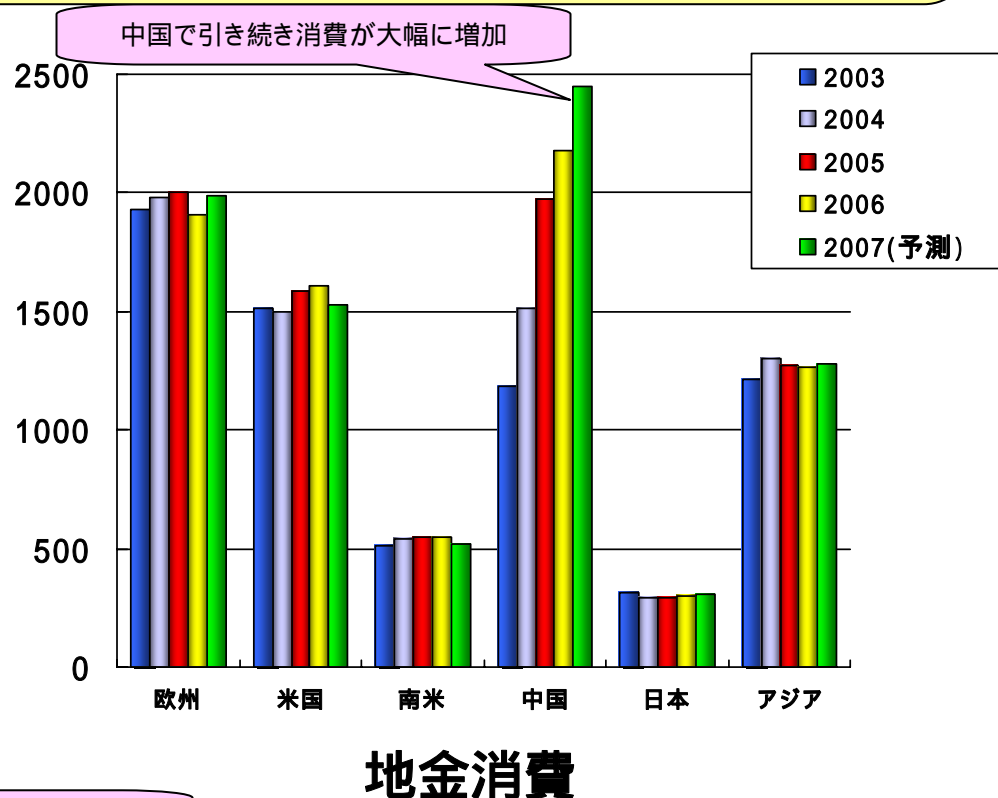
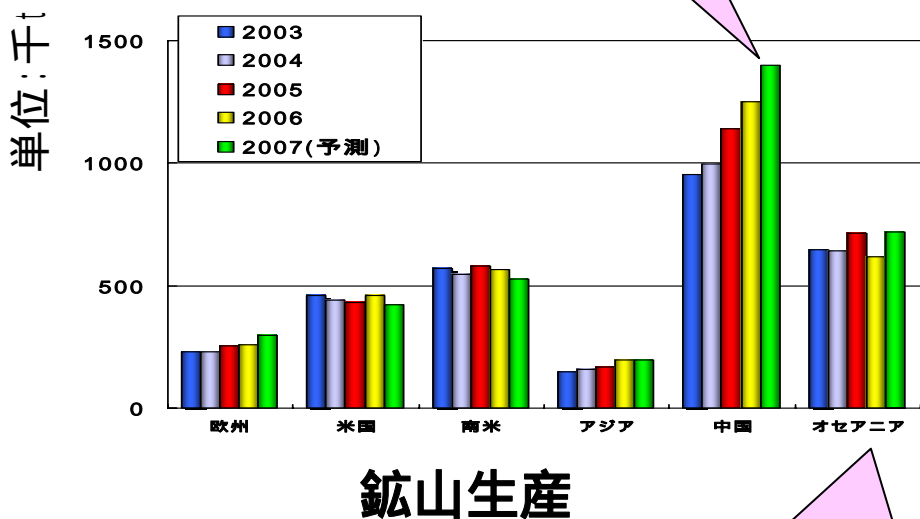
出典: 国際鉛亜鉛研究会

二次回収は地金生産(一次、二次)と鉱山生産の算術差

鉛の需給

鉛の需給動向(地域別)

- 供給上の障害として、豪州の鉱山生産低迷(Magellan鉱山(鉛汚染)、Mt.Isa鉱山等)がある。
- 米国、欧州、日本、アジア(韓国、台湾等)では消費は伸び悩み。
- 中国は世界最大の鉱山生産(36%)、消費国(27%)で、2007年も引き続き大きく伸びると予測。
(国際鉛亜鉛研究会)

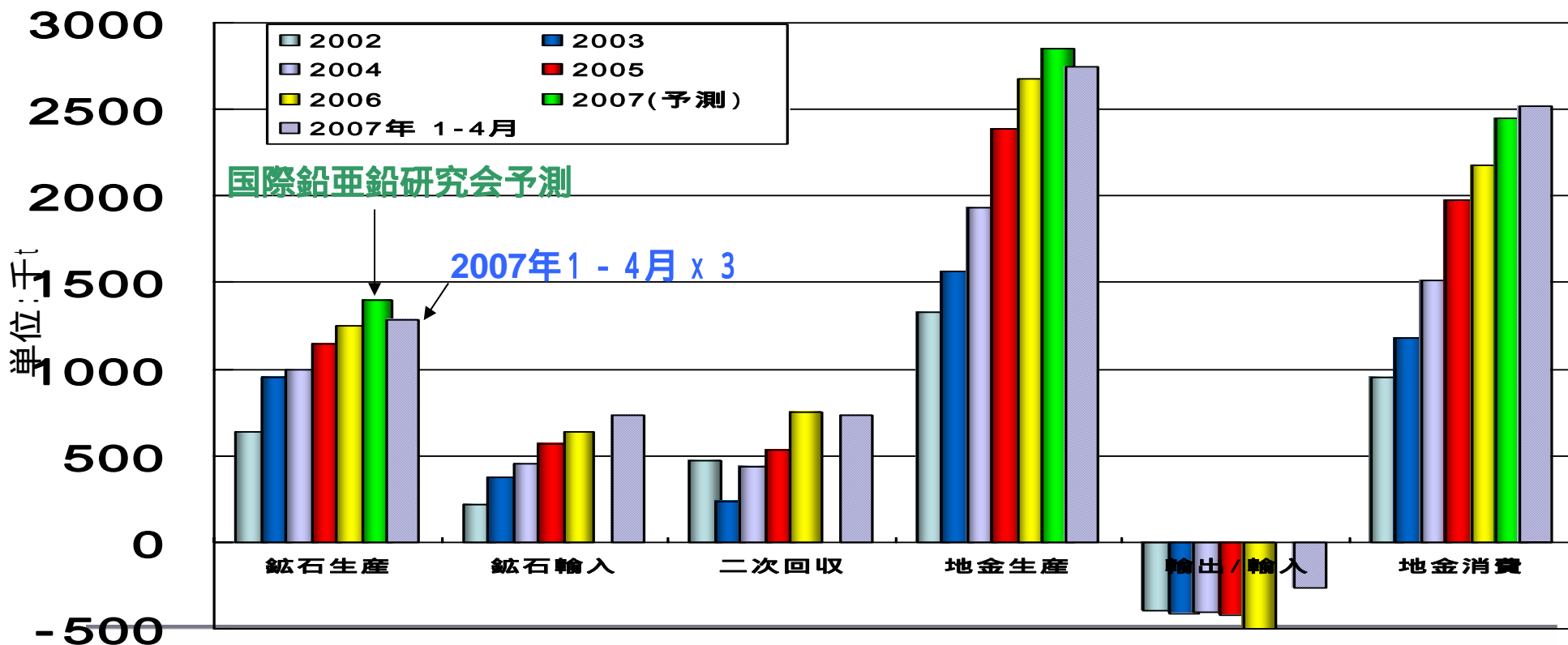


豪州は生産障害から回復か

鉛の需給

中国の鉛需給(2002年～2007年)

- 鉱石自給率は2006年で47%。2003年に鉱山生産が増えたものの、その後は自給率漸減。
- 地金生産が地金消費を上回り、供給過剰の状態にあり、余剰分は輸出される。
- 2007年に入り、地金生産が鈍化するが、消費は引き続き伸び、中国国内の鉛需給はタイトとなり、輸出が減少した。
- 2006年の自動車生産は728万台(前年比27%増)に達し、鉛需要は強い。

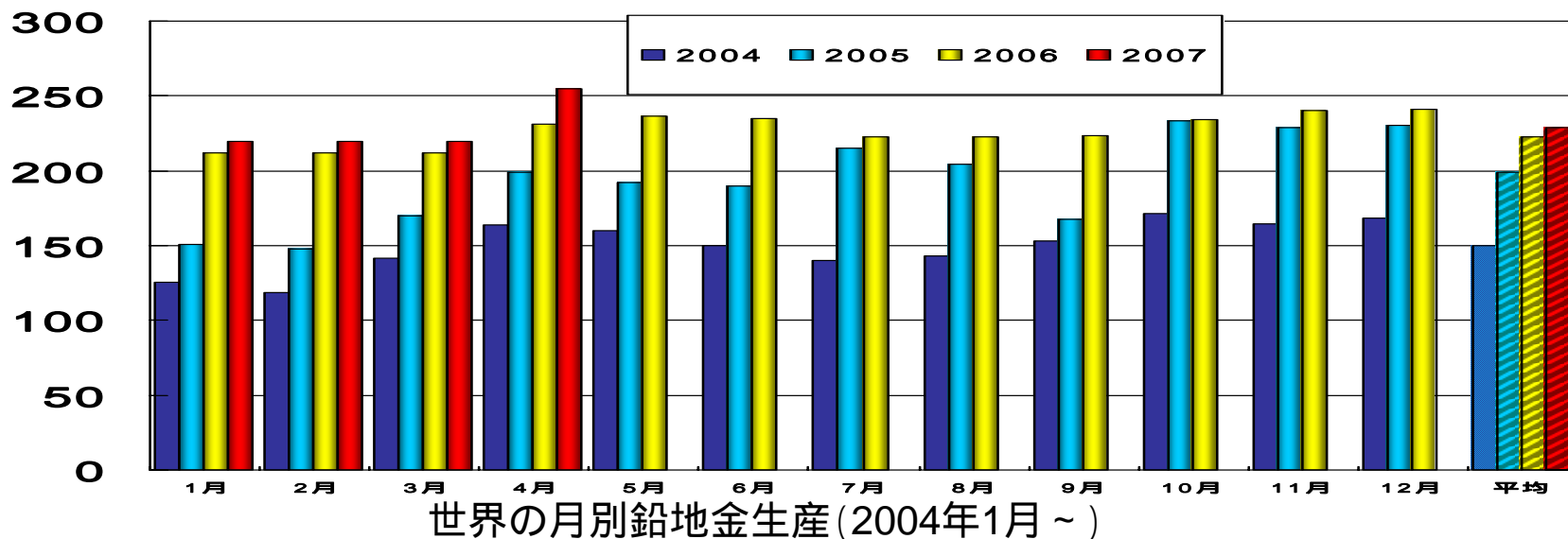
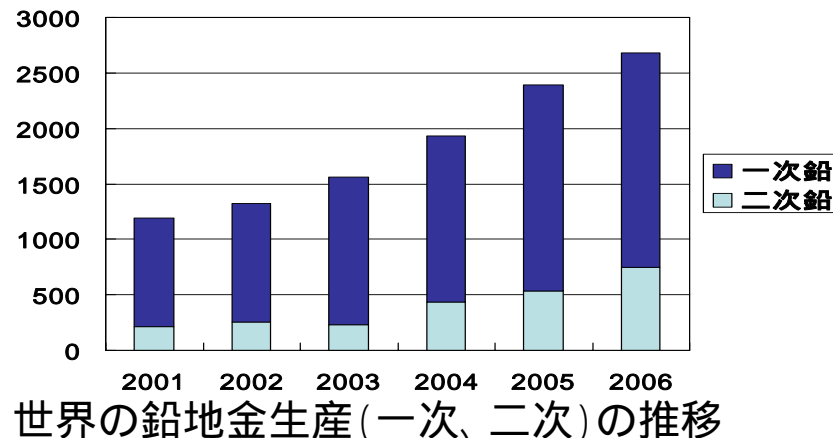


出典: 国際鉛亜鉛研究会

二次回収は地金生産(一次、二次)と鉱山生産の算術差

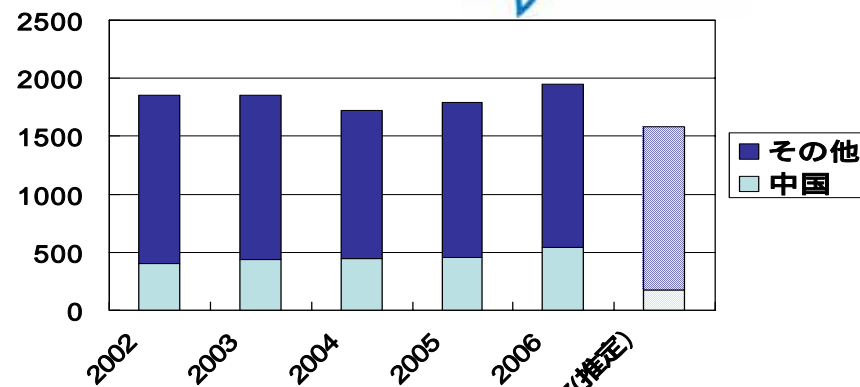
中国の鉛地金生産の推移(2004年1月～)

- 地金生産は、2004年以降急激に増加。
しかし、2006年の終わりから、伸び率鈍化。
- 2007年1 - 4月は、前年比ほとんど増えず。
鉱石不足が原因と考えられる。
- 二次鉛の使用(スクラップ率)は、21%(2001年)から28%(2006)と増加しているが、西側平均69%(2006)よりかなり低い。

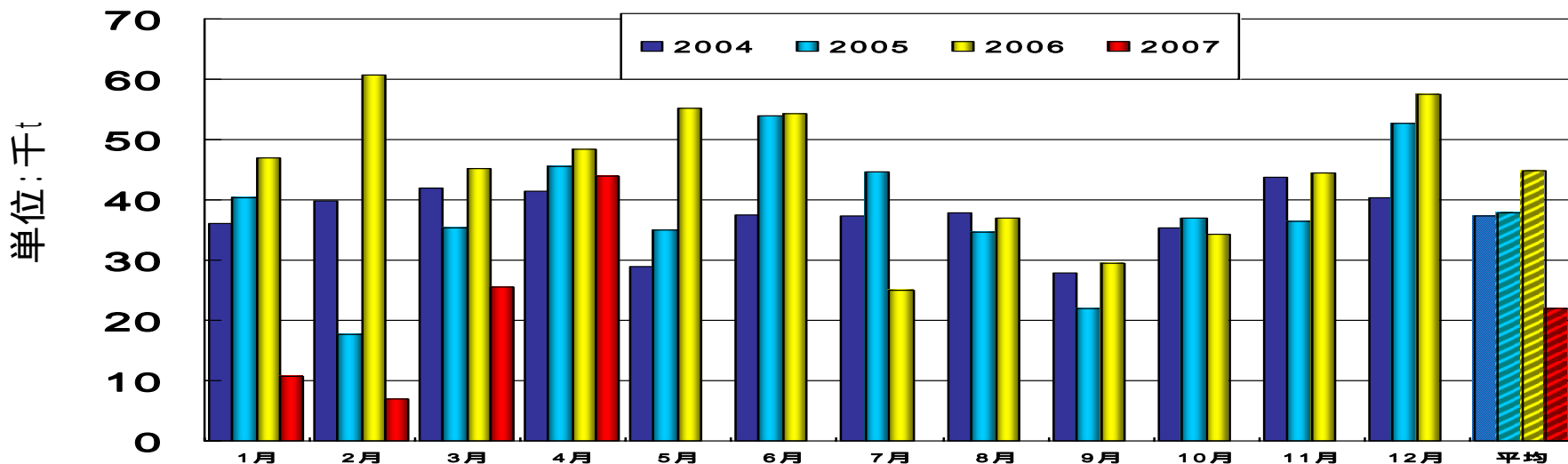


中国の鉛地金輸出の推移(2004年1月～)

- 中国の地金輸出は世界の地金貿易の約4分の1を占める。
- 中国は平均で約40千t/月の鉛地金を輸出してきた。
- 2007年に入り、輸出量は激減したが、4月は回復。
(1-4月は、月平均で約22千t)
- 輸出減の原因は、国内需給逼迫または輸出制限
- 中国の輸出減は、世界の鉛需給にも影響。
価格高騰の一因か。



世界の鉛地金貿易(輸出)に占める中国の割合



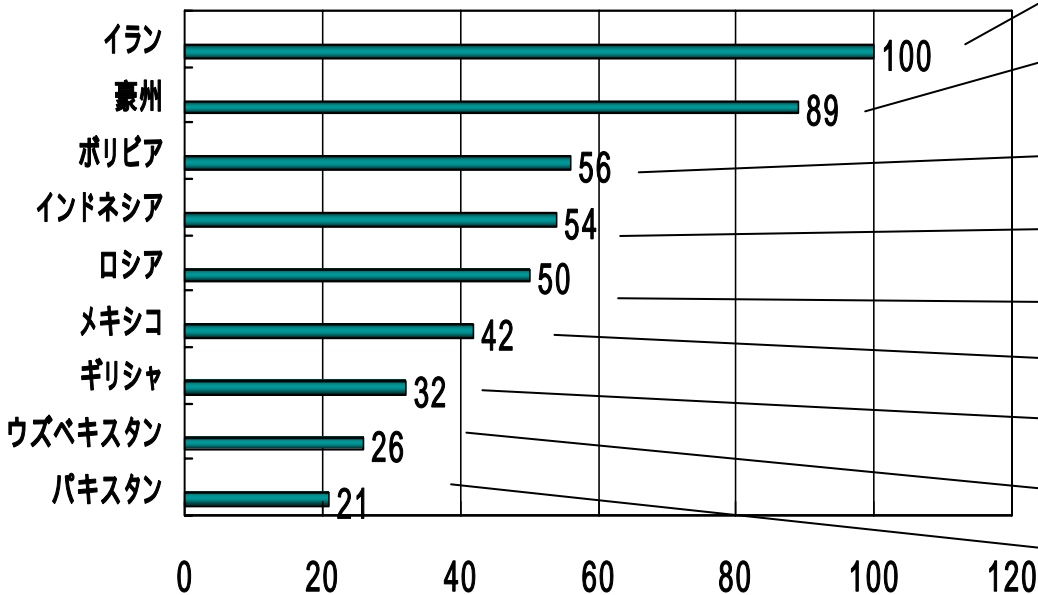
中国の月別鉛地金輸出(2004年～)

鉛の新規鉱山(2007～2011)

- 2007年～2011年の4年間に開山予定の主要な新規鉱山案件の年生産量の合計は439千t/y。
- 既存鉱山の拡張に、Mt.Isa(100千t/年)、Cannington(100千t/年)(いずれも豪州)が計画。
- 大型案件に、Mehdiabad(イラン)、SanCristobal(ボリビア)、LadyLoretta(豪州)、Dairi(インドネシア)等がある。
- 中国、Hunan Non Ferrous Metals社はパキスタンDuddarの開発を計画

鉱山名(金属年産千t、生産開始予定、企業名)

主要新規鉛鉱山の採掘能力(年産、千t) (2008～2011)



Mehdiabad(100,2011,Union Zinc)
Dugald River(20,2011,Zinifex),Lady Loretta(55,2011,Xstrata) Rasp(14,2008,CBH Resources)
SanCristobal(56,2007, Apex Silver - 住友商事)
Dairi(54,2008,Herald Resources)
Ozernoe(50,2008,Metropole/Lundin Mining)
Penasquito(42,2009,GoldCorp)
Olimpias(32,2008,European Goldfields)
Khandiza(26,2010,Marakand)
Duddar(21,2011,Hunan Non Ferrous Metals)

2007年の鉛需給の展望

< 2007年 >

- ・2007年に入り、供給障害、中国の消費拡大により、需給タイトな状況となり、ファンドの介入もあり、鉛価格は史上最高値(2530ドル/t)を更新。
- ・2007年のバランスはマイナスと予測され、第一四半期の実績もマイナス。
- ・中国では、
原料不足による地金生産の伸び悩み、消費の拡大により、需給がタイト化。
地金輸出は世界の地金貿易の4分の一を占めており、世界の鉛市場もタイト化。
政府の輸出制限(輸出増値税還付廃止、輸出関税)の影響。
生産能力が過剰となっており、需給が緩み、消費が落ち込むと、大量の地金が輸出にまわる可能性。
- ・価格については、2008年まで需給タイトな状態が続くとみられるが、中国の動向、その他の要因で価格下落が起きる可能性が拡大。